

利尻島未記録の蛾 3 種

佐藤雅彦¹⁾・楠 祐一²⁾

¹⁾ 〒 097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

²⁾ 〒 078-8321 北海道旭川市神楽岡 11 条 3 丁目 日本蛾類学会会員

First Reported Occurrences of Three Moth Species from Rishiri Island

Masahiko SATO¹⁾ and Yuichi KUSUNOKI²⁾

¹⁾Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

²⁾Member of the Japan Heterocerists' Society, 11-3 Kaguraoka, Asahikawa, Hokkaido, 078-8321 Japan

Abstract. Three species of moths, *Coleophora serratella*, *Hupodonta corticalis* and *Eutelia geyeri*, are reported for the first time from Rishiri Island. Although *C. serratella* is the second species recorded belonging the family Coleophoridae, there is the possibility of a few additional species from this island.

利尻島から報告がある蛾類は、これまでにおよそ 590 種が数えられている (平嶋, 1989; 楠・保田, 1991, 1993; 倉田・西澤, 1992, 1993, 1995; 神保・柳田, 1978; 酒井ほか, 1968; 楠・佐藤, 2001, 2013; 工藤, 2010, など). 2014 年に採集され利尻町立博物館に収蔵された標本のうち、本島から記録がなかったと思われる蛾類 3 科 3 種が確認されたので、以下のとおり報告する。なお、調査にご協力いただいた岡真由美さん (利尻町杵形) にお礼申し上げる。

ツツミノガ科 Coleophoridae

01. *Coleophora serratella* (Linnaeus, 1761)

シラカバツツミノガ

1M, Senhoshi, Rishiri Island, Hokkaido, Japan, 2014.vi.20 (emerged 2014.vii.7), M. Satô leg., RTMLp206.

ツツミノガ科の幼虫は独特の筒巢を形成し、様々な食草から発見されるが、その大きさは 10mm に

満たない小型蛾類である。同定に使用された標本は、2014 年 6 月に林道脇のウドおよびハンゴンソウの葉上で発見された筒巢の 1 つから、後日羽化したオス個体であった。シラカバツツミノガの食草はカバノキ科とされ (広渡ほか, 2013), 本筒巢が採集された草本の上部にはダケカンバなどの広葉樹が覆う林であったことから、高所の枝から落下してきた幼虫がウドまたはハンゴンソウの葉上で蛹化したものと想像された。これまで利尻島からはノコギリソウツツミノガ *Coleophora argentula* (Stephens, 1834) が確認されているが (楠・奥, 2010), 筆者らにより撮影された筒巢や成虫の写真からアザミクロツツミノガ *C. paripennella* およびネプトキンバネツツミノガ *C. deauratella* など、未確認種が複数生息している可能性がある (楠・奥, 2009)。

シャチホコガ科 Notodontidae

02. *Hupodonta corticalis* Butler, 1877

カバイロモクメシャチホコ

1F, Kutsugata, Rishiri Island, Hokkaido,

Japan, 2014.viii.21, M. Oka leg., RTMLp205.

同定に使用された標本は、民家の壁に止まっていたところを採集されたメス個体であった。シャチホコガ科はこれまでに28種が本島から記録されているが(酒井ほか, 1968; 神保ほか, 1971; 倉田・西澤, 1992, 1993, 1995, など), 本種が確認されたことはこれまでなかった。

ヤガ科 Noctuidae

03. *Eutelia geyeri* (Felder & Rogenhofer, 1874)

フサヤガ

1M, Senhoshi, Rishiri Island, Hokkaido, Japan, 2014.x.16, M. Satô leg., RTMLp204.

フサヤガの代表的な食草はヌルデなどのウルシ科およびブナ科とされているが(岸田, 2011), 本島のウルシ科はツタウルシとヤマウルシの2種に限られ, 採集場所の付近にはツタウルシが分布する。同採集場所では, 2013年10月にも成虫が目撃されていたが, 捕獲する事はできなかった。

参考文献

平嶋義宏(監修), 1989. 日本産昆虫総目録. 九大農学部昆虫学教室, 福岡. 1767 pp.

広渡俊哉・坂巻祥孝・岸田泰則・那須義次(編), 2013. 日本産蛾類標準図鑑 III. 学研教育出版. 359pp.

北海道旭川西高等学校生物部, 1960. 生物研修収録第11号利尻島. 52 pp.

伊東拓也, 1980. 利尻山での蛾類採集記録とその考察. 蝦夷白蝶, 11(1): 10-14.

神保一義・谷口高司, 1971. 利尻島利尻山の高山蛾. 蛾類通信, (66): 94.

神保一義・柳田慶浩, 1978. 北海道利尻島利尻山の蛾. 誘蛾燈, (74): 135-139.

神保一義・柳田慶浩・谷口高司, 1971. 大雪高山帯及び利尻島の蛾類. *Coenonympha*, 27: 535-538.

岸田泰則(編), 2011. 日本産蛾類標準図鑑 II. 学習研究社. 417pp.

工藤広悦, 2010. 利尻島のキリガ類. 利尻研究, (29): 7-11.

工藤広悦・佐藤雅彦, 2010. 利尻島のメイガ類. 利尻研究, (29): 43-51.

楠 祐一, 1975. 利尻島で採集した蛾類. *Coenonympha*, 31: 603-605.

楠 祐一・奥 俊夫, 2009. 北日本産ツツミノガ科の分布記録と生態(1). 誘蛾燈, (197): 89-103.

楠 祐一・奥 俊夫, 2010. 北日本産ツツミノガ科の分布記録と生態(2). 誘蛾燈, (201): 121-133.

楠 祐一・佐藤雅彦, 1995. 利尻島産蛾類の記録: 1992年の採集品目録. 利尻研究, (15): 13-15.

楠 祐一・佐藤雅彦, 2001. 利尻島産蛾類の記録: 1990~2000年の採集品目録. 利尻研究, (20): 55-60.

楠 祐一・佐藤雅彦, 2013. 2000年から2009年にかけて採集された利尻島産蛾類標本. 利尻研究, (32): 37-45.

楠 祐一・保田信紀, 1991. 利尻山高山帯の蛾類. 利尻研究, (10): 29-32.

楠 祐一・保田信紀, 1993. 利尻島鴛泊にて得た蛾類. 利尻研究, (12): 15-17.

倉田 稔・西澤繁幸, 1992. 利尻島の蛾の調査報告(1). 長野県と日本列島の自然の研究3 利尻島・礼文島・天売島. 29-45 pp.

倉田 稔・西澤繁幸, 1993. 北海道・利尻島の蛾I. 利尻研究, (12): 19-30.

倉田 稔・西澤繁幸, 1995. 北海道・利尻島の蛾II. 利尻研究, (15): 17-24.

倉田 稔・西澤繁幸・蛭川憲男, 1990. 利尻島の昆虫. 長野県と日本列島の自然の研究1. 19-24 pp.

酒井 香・花谷達郎・小沼 篤, 1968. 利尻島の昆虫(I) 利尻島産鱗翅目. 利尻島動植物調査の記録. 東京農業大学第一高等学校. 64-79 pp.

佐野ひろみ・佐藤雅彦, 2007. 2006年に利尻島沓

- 形で採集された蛾. 利尻研究, (26): 27-28.
- 佐藤雅彦・楠 祐一, 1998. 利尻島未記録の蛾. 利尻研究, (17): 1-2.
- 佐藤雅彦・楠 祐一, 2014. 利尻産ミノガ科およびヒゲナガガ科の記録. 利尻研究, (33): 15-16.
- 佐藤雅彦・工藤広悦, 2005. 利尻島から未記録の蛾2種. 利尻研究, (24): 103-104.
- 杉 繁郎, 1969. 利尻島および礼文島のヤガ. *Coenonympha*, 24: 487-488.
- 高橋隆一, 1969. 北海道. 早稲田蛾報, 1: 5-10.
- 早稲田大学生物同好会, 1980. 利尻島の動植物調査報告. 早稲田生物, (22): 25-68.